

東名阪自動車道 弥富 IC・蟹江 IC に飛来・営巣する
サギと高速道路との共生に向けた活動

2016年活動報告



2017年3月3日

サギと高速道路との共生を考える会
中日本高速道路株式会社名古屋支社 桑名保全・サービスセンター
公益財団法人愛知公園協会 弥富野鳥園
日本野鳥の会 愛知県支部

目 次

2016年活動報告.....	1
1. はじめに	1
2. 活動の経緯	1
3. 考える会	3
4. サギのモニタリング調査.....	4
5. 道路管理及び営巣地保護活動	8
6. 路上における鳥類死骸回収数の動向	14
7. 情報発信に向けた活動	15
8. 記者発表・マスコミ報道等の記録.....	16

表紙写真 : 弥富 IC (撮影) 村上 修

1. はじめに

本報告は、中日本高速道路株式会社 名古屋支社 桑名保全・サービスセンター（以下、「NEXCO 中日本」）、公益財団法人愛知公園協会 弥富野鳥園（以下、「弥富野鳥園」）、日本野鳥の会 愛知県支部（以下、「県支部」）が、2010年8月28日に締結した「サギと高速道路との共生に向けた連携・協力に関する覚書」に基づき、連携・協力して行った2016年の活動内容の報告である。

（参考）覚書の概要

【目的】

NEXCO 中日本、弥富野鳥園、県支部が連携・協力して、高速道路の機能と安全を損なうことなく、サギの生息環境を保全し、自然（サギ）と人（高速道路）との共生を継続的に図っていく。

【連携・協力の内容】

- ① 「サギと高速道路との共生を考える会合」（考える会）を3者で営巣期と非営巣期の年2回開催し情報や意見交換する。
- ② 県支部は、サギの継続的なモニタリング調査を計画・実施、NEXCO 中日本は調査に協力する
- ③ 弥富野鳥園と県支部は、考える会でNEXCO 中日本に専門的な見地からアドバイスする。
- ④ NEXCO 中日本は、アドバイス等を参考に生息域の維持保全に勤める。また、実施した作業や状況を考える会で報告する。
- ⑤ 生物多様性などの環境教育や野鳥保護思想の普及啓発のため積極的な情報発信を行う。



図 1-1 覚書調印式 2010年8月28日

2. 活動の経緯

東名阪自動車道の弥富 IC と蟹江 IC には、毎年春になると数千羽ものサギが飛来し、秋にかけて IC 内の園地や盛土の樹木に営巣する。

サギが営巣を始めると高速道路内への飛翔や幼鳥の路面へのはい出しを急ハンドルでドライバーが回避するなど交通安全上の問題が生じる。路上でサギがひかれるなど動物愛護上も問題である。また、走行車両や周辺民家へ糞を落とすなどの苦情が時に寄せられることもある。

このように道路管理上は厄介な住人ではあるが、NEXCO 中日本では、開発が進み人に追いやられたサギを高速道路が守れる貴重な機会ととらえ、高速道



図 2-1 IC内に営巣するサギと嵩上げしたフェンス

路の機能と安全を損なうことなくサギの生息環境を保全する共生の道を選択し、嵩上げたフェンスによる生息域と道路空間の分離やドライバーへの注意喚起などの取り組みを 2010 年の飛来期までに行ってきた。その結果、2010 年のサギの路上での衝突事故事象が前季までに比べて約 1/3 に減少するなど顕著な成果があった。

しかしながら、その後の取り組みに関しては、次のような課題が残った。

- ① サギの個体数や種類、営巣状況などの実態やその推移を把握するために、客観的なモニタリングを継続的に実施していく必要がある。
- ② 事象や環境の変化などに適切に対応し改善を図っていくためには、サギの生態などに関し専門的な見地からのアドバイスが必要。
- ③ 採餌環境の保全や周辺住環境への影響などについて、地域の理解と協力を得たり情報交換を行ったりする場が必要。

これらの課題に対しては、サギの生態や調査方法等に専門的知見が必要であるばかりでなく、土地利用や生活環境など地域社会とも関連していることが多く、NEXCO 中日本だけで対応するには自ずと限界がある。そこで、弥富野鳥園と県支部に共生の取り組みを共に行うことを呼びかけ、2010 年 8 月に連携・協力の覚書を取り交わし、この活動がスタートした。

2016 年は、サギの飛来から渡りまで年間を通じての活動の 6 年目にあたる。

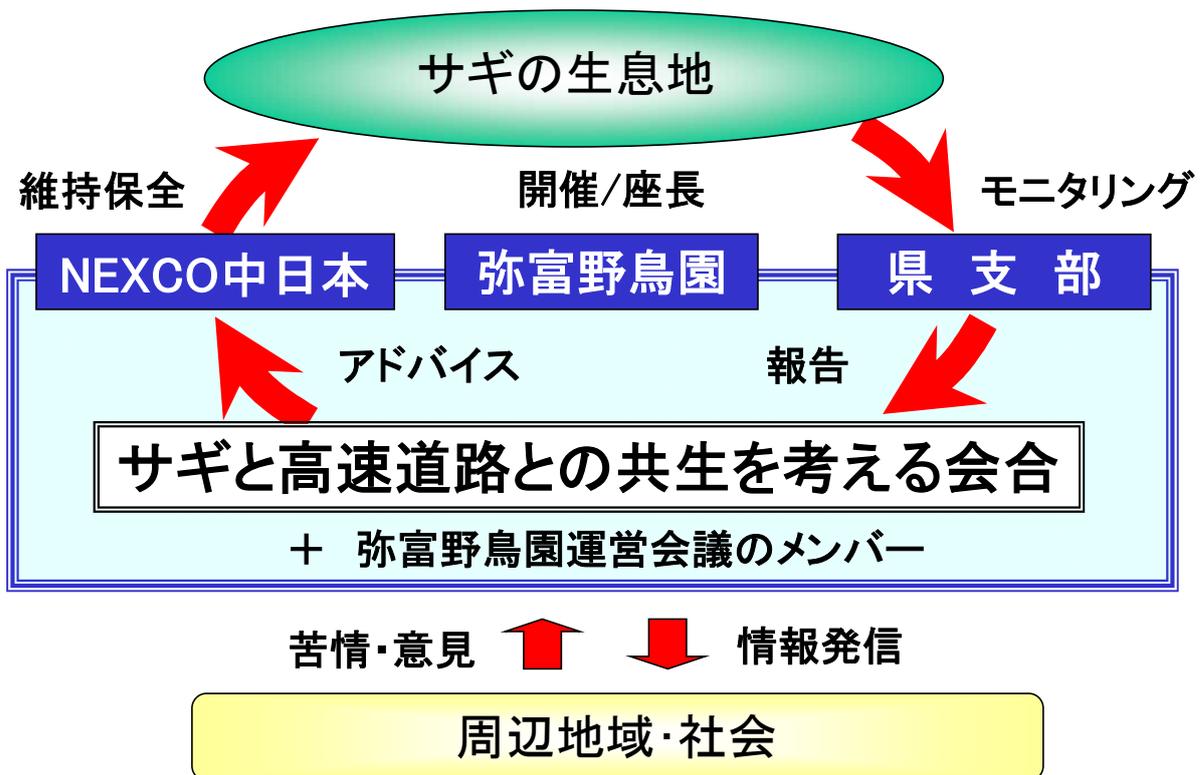


図 2-2 連携・協力した活動内容のイメージ

3. 考える会

2016年は、NEXCO 中日本、弥富野鳥園、県支部の3者及びが出席し、弥富野鳥園において3回の会合を行い状況報告や意見交換を行った。(第21、22回は、弥富野鳥園運営会議構成委員も出席)

各会の概要を表3-1に示す。

表 3-1 会合における議事内容

開催日	主な議事内容
第21回 2016年3月4日	・2015年活動報告(案)について ・2016年モニタリング調査予定
第22回 2016年6月22日	・2016年モニタリング調査計画
第23回 2016年12月24日	・2016年活動報告書作成方針 ・2017年活動方針について



図 3-1 考える会の会合 (弥富野鳥園)

2016年会合の出席者

愛知県環境部自然環境課	主任	多賀 潤 (第21回)
愛知県環境部自然環境課	技師	加藤 悠子 (第22回)
愛知県尾張県民事務所海部県民センター 環境保全課	技師	後藤 佳恵 (第21回)
愛知県尾張県民事務所海部県民センター 環境保全課	主任	川口 豊太 (第22回)
愛知県海部教育事務所指導課	指導主事	前田 健治 (第21回)
弥富市開発部農政課	主事	杉本 佑介 (第21、22回)
樹木医		小堀 英和 (第21、22回)
一般財団法人東海技術センター調査分析事業部		
水環境・有機分析部門	部門長	坪井 秀樹 (第21回)
環境調査部門	部門長	佐野 元宏 (第22回)
株式会社プレック研究所中部事務所		加藤 佐和子 (第21回)
公益財団法人愛知公園協会	常務理事兼本部長	牛嶋 早苗 (第21、22回)

(事務局)

愛知県弥富野鳥園	所長	伊藤 元季 (第21回)
愛知県弥富野鳥園	所長	吉田 眞 (第22回～)
愛知県弥富野鳥園	主査	匹田 竜太郎 (第21、22回)
日本野鳥の会愛知県支部	支部長	新實 豊 (第23回)
日本野鳥の会愛知県支部	副支部長	野澤 徹也 (第23回)
日本野鳥の会愛知県支部	会計	佐久間 淑章
中日本高速道路株名古屋支社桑名保全・サービスセンター	副所長	水野 信義 (第22回)
中日本高速道路株名古屋支社桑名保全・サービスセンター	副所長	北村 暢彦 (第21、23回)

4. サギのモニタリング調査

4.1. 調査の概要

具体的な調査方法については、以下のとおり。

- ・ 調査日は抱卵・育雛・巣立ちの推移を知るため年4回、5月から8月の第4土曜に行った。
- ・ 今季は本調査の前に予備調査を4月に行った。
- ・ 両ICで同日、同時刻に調査する。
- ・ まず、両ICの園地部に在留・営巣中の個体と巣を種別に数える「在留営巣調査」を実施し、その後、在留営巣調査の後にIC周辺5か所で待機し、各方向から帰来するサギの種と数を数える「帰来調査」を実施した。
- ・ なお、今季から弥富の調査地点をより調査しやすい地点に変更した。

4.2. 2016年度調査の課題

弥富ICでは、過去には営巣のあった下り線（亀山方面）出口ループ（以降、「弥富ICループ」）内に集まらなくなり、2014年より弥富IC北側県道沿い斜面部の樹木に集まるようになった。そのため県道を走行する車にひかれるケースが増え、県道沿いのサギを弥富ICループ内へ誘導することが課題となった。その対策として県道沿い樹木の伐採・枝払いと、昨季から実験的に始まったデコイによる誘導を試みた。

蟹江ICについても樹木の剪定を行った。

4.3. サギ調査

(1) 事前準備と事前調査（4月16日）

次の5班に分かれて実施した。

A班：弥富ICループ内のデコイの効果と営巣等の確認。

⇒デコイの追加と設置場所の修正が必要と判断。

⇒弥富IC-②（北側県道沿いの区域）に60羽入るのを確認。

⇒蟹江ICは、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギを中心に185羽を確認。

B班：追加のデコイの着色製作。

⇒アマサギ6体、コサギ2体の計8体を完成させた。

C班：弥富トレーニングセンター樹林地で営巣するアオサギのコロニー調査

⇒アオサギ等72羽と30巣を確認（確認できたのは樹林全体の25%ほど）。

D班：弥富ICの調査地点の見直し

⇒IC北側の調査地点を料金所北へと移動する事とした。

E班：蟹江IC北側県道沿いの確認

⇒昨季営巣したゴイサギは、高速道路内園地部へ移動した。IC南の区域へも入る可能性がある事を確認した。

(2) 第1回調査 (5月28日)

サミットによる警備強化のため、高速道路内に立ち入ることができず、高速道路外からの調査にとどまった。

デコイを設置した弥富 IC ループ内には、少数のゴイサギが確認されたのみであったが、昨季は集まっていなかった弥富 IC ループに隣接する園地部に、90羽（種不明）が確認でき、デコイの効果ではないかと期待された。

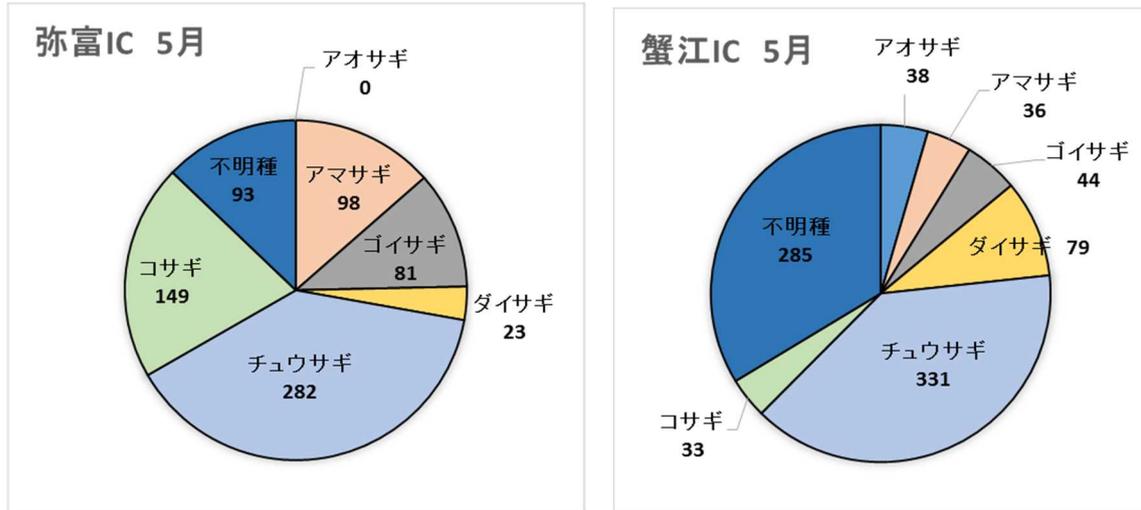


図 4-1 IC 別種別内訳 (5月)

(3) 第2回調査 (6月25日)

弥富 IC には 358 羽（昨季同月では 2 羽のみ）が入り営巣も見られた。しかし、デコイを設置した弥富 IC ループではゴイサギしか確認できず、シラスギ類は見られなかった。営巣が見られたのは、弥富 IC ループの西隣園地部と北隣園地部であった。昨季集中した弥富 IC 北側県道沿いは、前年の 30%ほど（138 羽）に減少した。

蟹江 IC では、北側県道沿いのサギは居なくなり、高速道路内園地部に全てのサギが集中する傾向となった。

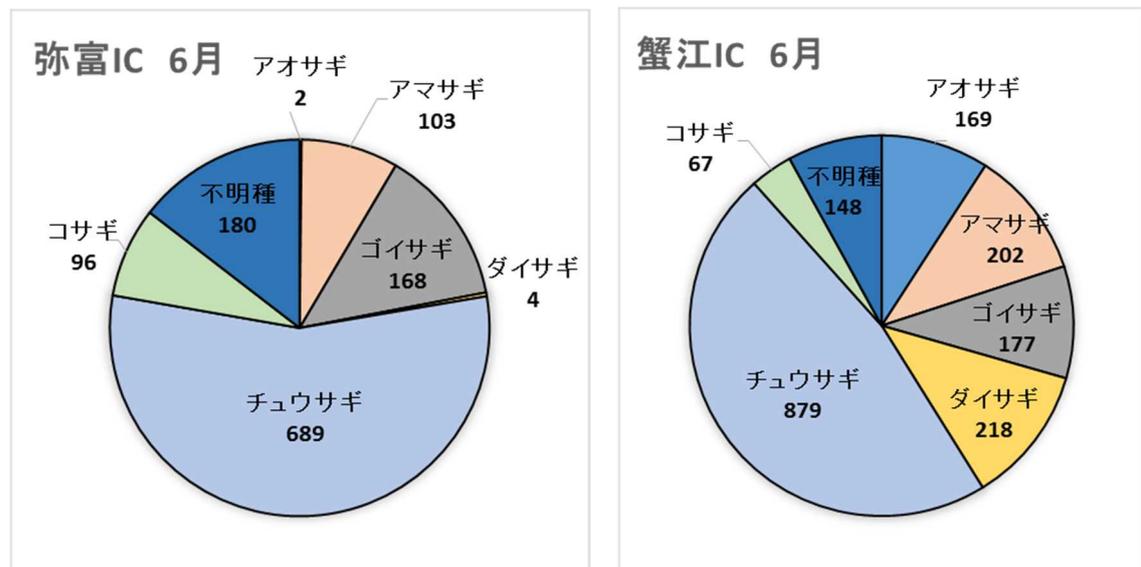


図 4-2 IC 別種別内訳 (6月)

(4) 第3回調査 (7月30日)

弥富 IC 北側県道沿いで 103 羽を確認したが、弥富 IC ループ内では営巣は見られず (ゴイサギ 4 羽のみ)、弥富 IC ループの西隣園地部と北隣園地部に 601 羽が集中した。

蟹江 IC では、北側県道沿いでゴイサギ 3 羽のみを確認した。また、サギの多くは高速道路内園地部に収まっているが、IC 南の区域にも営巣木が生れた。

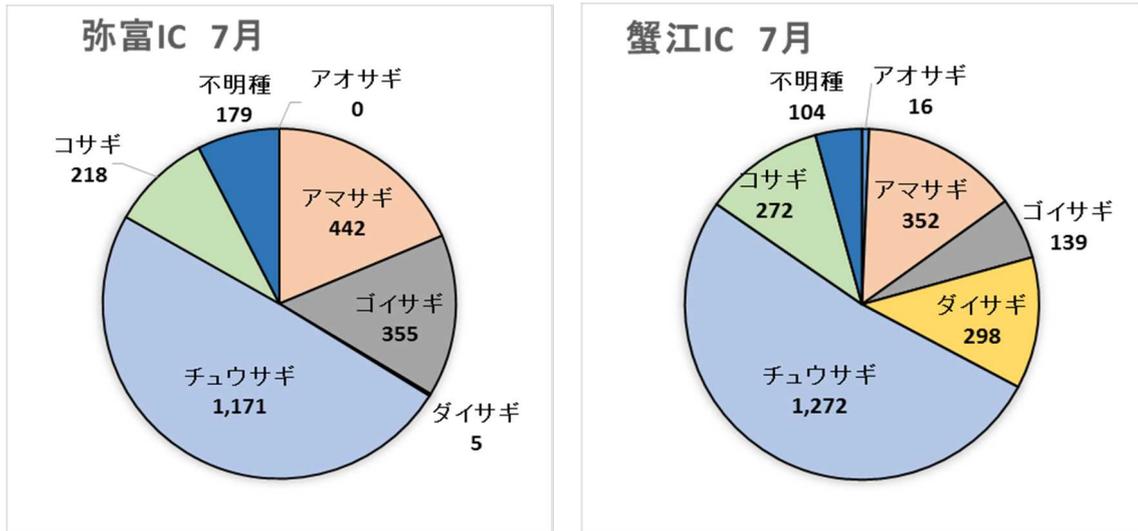


図 4-3 IC 別種別内訳 (7月)

(5) 第4回調査 (8月27日)

弥富、蟹江 IC 合わせて 5,452 羽をカウントした。これは昨季の 7,906 羽と比較すると 30%ほど減少しており、昨季と比べ、サギの移動・分散が早く始まったと思われる。

両 IC ともに、北側県道沿いの樹木伐採が、高速道路内園地部へサギコロニーを集中させるなど大きな影響を与えたと考えられる。同時に、デコイを設置した弥富 IC ループに集まらなかったことや、高速道路外の樹木に営巣するサギが発生するなど、サギ誘導の難しさも実感する結果となった。

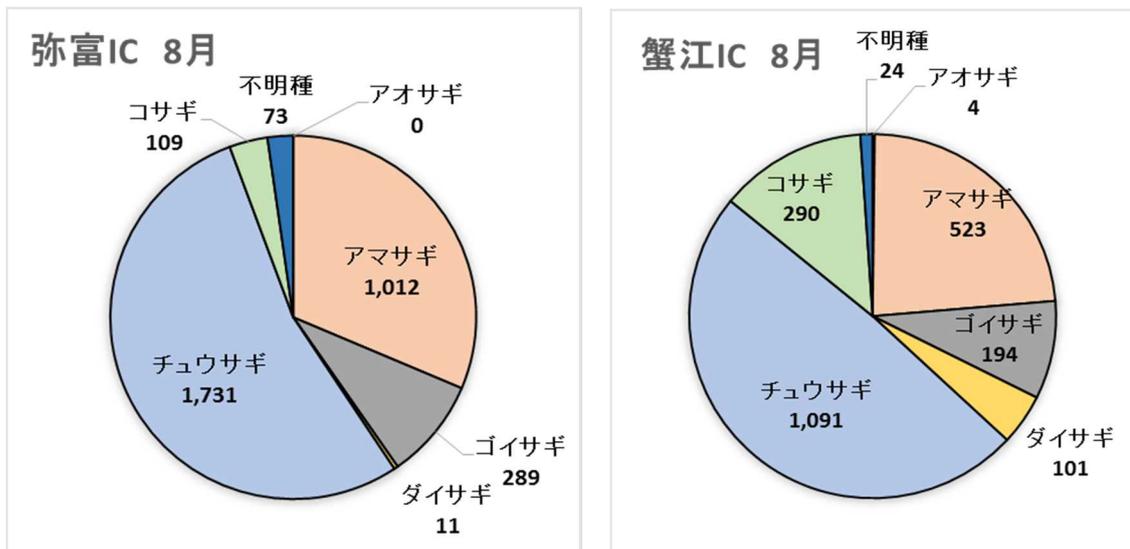


図 4-4 IC 別種別内訳 (8月)

4.4. 調査結果集計

月別 IC 別生息数の集計を、表 4-1 に示す。

表 4-1 月別 IC 別生息数集計

	単位(羽)			
	5月28日	6月25日	7月30日	8月27日
蟹江 IC	846	1,860	2,453	2,227
弥富 IC	726	1,242	2,370	3,225
合 計	1,572	3,102	4,823	5,452

4.5. 来季への課題と方針

- ・ サギの誘導の課題を引き続き追及する。
- ・ 「共生」の課題をさぐる。
- ・ 調査員の定着と識別能力の向上を目指す。

5. 道路管理及び営巣地保護活動

5.1. 弥富 IC 北側県道沿いの区域における営巣集中対策

昨季においても、弥富 IC 北側県道沿いの高速道路斜面に営巣が集中していることが確認されたため、以下の対策を講じた。

(1) 草木管理

- ・ 弥富 IC 北側区域の樹木の伐採、剪定及び草刈り範囲の拡大。
- ・ 作業期間… 2016 年 2 月 24 日、2016 年 3 月 3 日



図 5-1 草木管理範囲



図 5-2 草木管理施工状況

- (2) 応急設置の高速道路ガードレール下の幼鳥這い出し防止ネットを正式なものに整備
 ・ 設置日…2016年3月28日、2016年3月29日

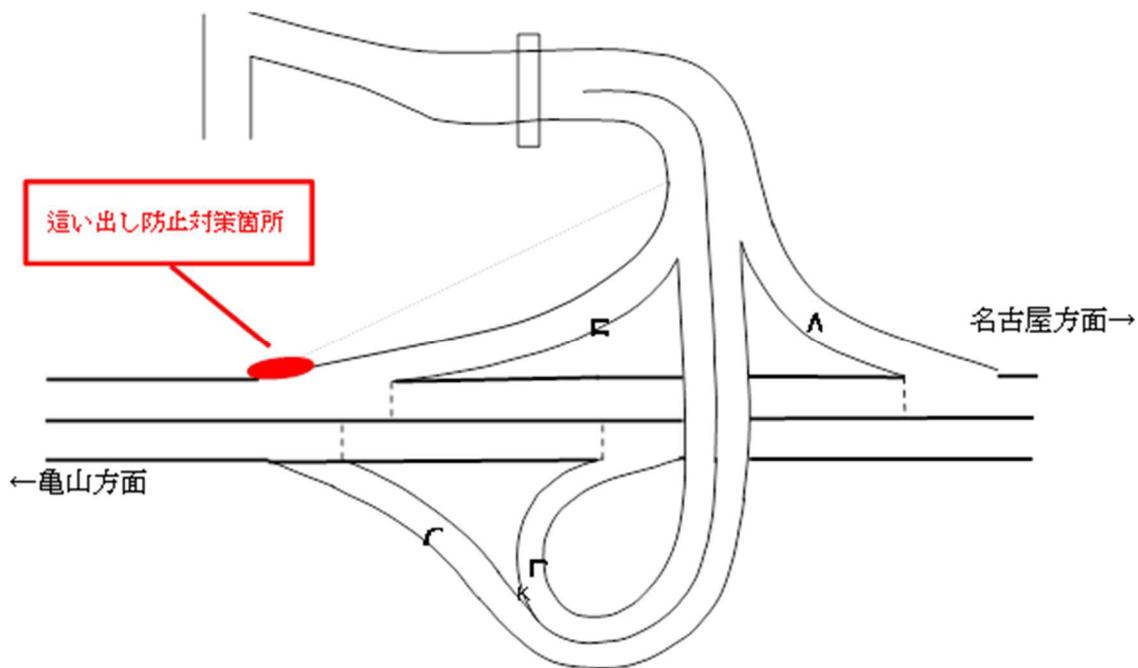


図 5-3 這い出し防止ネット設置位置



図 5-4 這い出し防止ネット設置状況

- (3) 弥富 IC ループ内にデコイを設置
- ・ 設置日…2016年3月中旬、2016年4月下旬
 - ・ デコイ設置数：21体



図 5-5 デコイ設置位置



図 5-6 デコイ設置状況(1)



図 5-7 デコイ設置状況(2)

5.2. 蟹江 IC

(1) 蟹江 IC 北側県道沿いの区域における樹木伐採、剪定、草刈

- ・ 作業期間… 2016年2月23日～2016年2月25日

名古屋方面



図 5-8 草木管理範囲

施工前



施工後



図 5-9 草木管理施工状況

(2) 対策フェンス及び幼鳥這い出し防止ネットの延長設置

- ・ 設置日…2016年3月29日、2016年3月30日

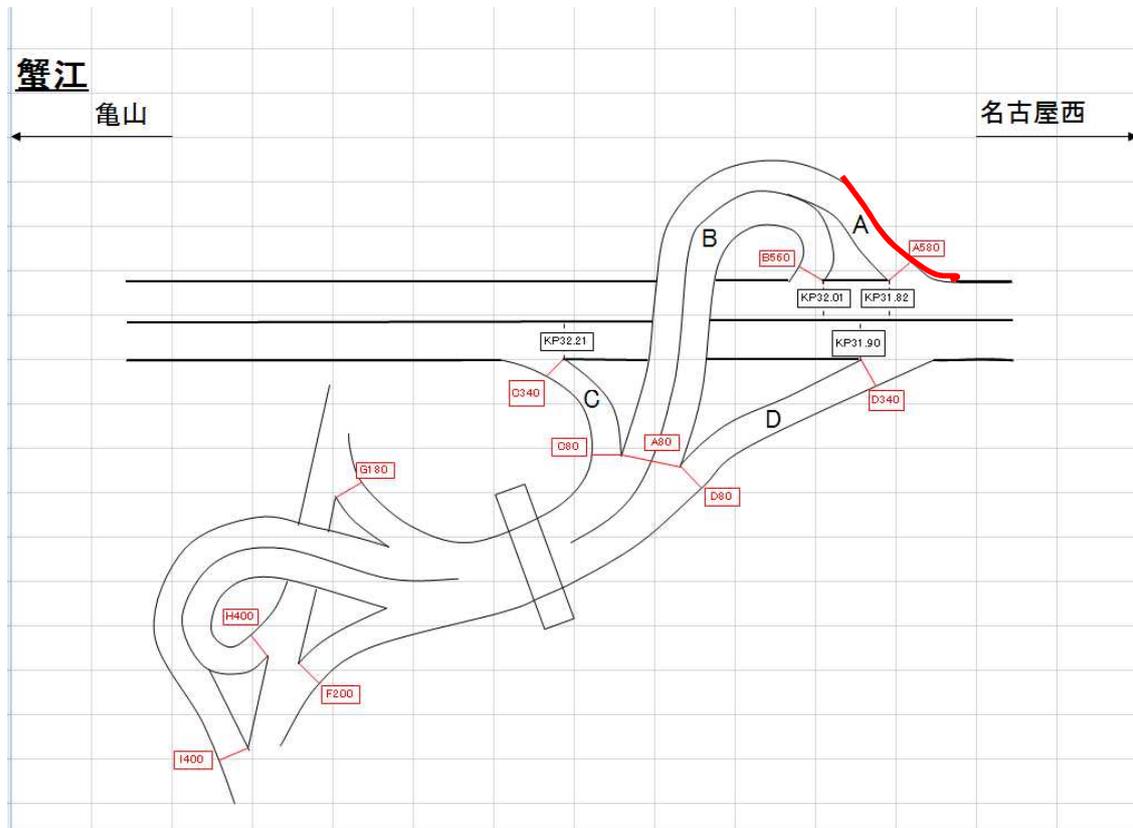


図 5-10 這い出し防止ネット施工位置



図 5-11 這い出し防止ネット設置状況

5.3. 来季飛来前に向けた取り組み

(1) 弥富 IC

北側県道沿い区域の営巣集中対策として、大規模な樹木伐採と、剪定及び草刈り範囲を拡大した。来季は、今季実施した内容での高速道路脇における樹木伐採、剪定、草刈を実施する。

(2) 蟹江 IC

例年通りの北側県道沿い区域及び高速道路園地部における樹木伐採、剪定、草刈を実施する。

6. 路上における鳥類死骸回収数の動向

NEXCO 中日本では、2010 年のサギの飛来に先立つ 2010 年 1 月～2 月に、以下の共生に向けた抜本的な取り組みを行った。

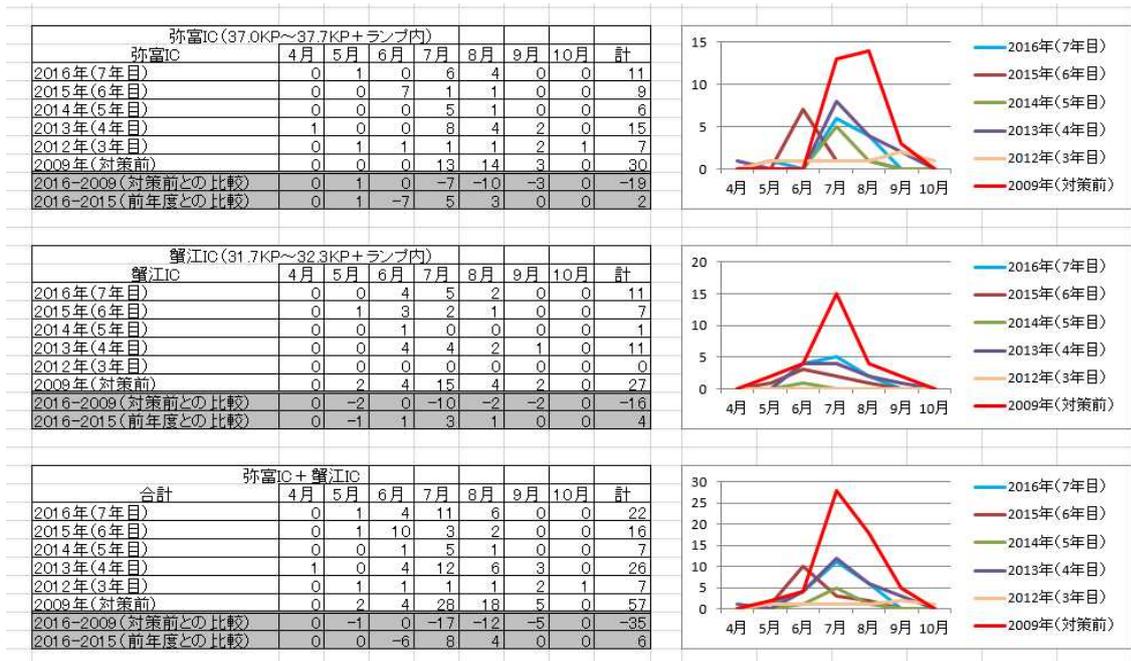
- 道路機能上支障のない範囲でサギの生息領域を設定
- 生息領域のフェンスによる囲い込みとフェンスの嵩上げ (2.5m→4.5m)
- 道路隣接部の樹木の剪定、防草シート設置による生息領域と道路との分離・明確化

サギが飛翔中に車と衝突したり、ヒナが道路にはい出して車に轢かれたりする事象を、交通管理隊(黄色パトロールカー)の道路巡回時に路上障害物として回収した鳥類の死骸数で把握している。

これによると、上記の抜本的な取り組みを行う前の 2009 年の死骸回収数(グラフ赤線)と比較して、取り組み後の 2010 年以降の回収数は、下表のとおり大きく減少しており対策の効果が顕著に認められる。

ところが 2013 年は、2010 年にフェンスの囲い込みや嵩上げ等の抜本的対策を行って 4 年目となるが、対策を行って以降で最も多い死骸回収数となった。このことより、対策強化として、飛来前に念入りに道路空間との隣接部の枝剪定、枝払いを実施するとともに、フェンス下部の這い出し防止対策用のネット損傷箇所の更新を行った。

2016 年は、弥富 IC と蟹江 IC の合計死骸回収回数が 2015 年と比べると増加しているが、2010 年以降の値として突出しているわけではない。



6-1 高速道路上での鳥類衝突事故状況

7. 情報発信に向けた活動

7.1. サギ観察会の実施

2016年7月31日(日)、主催：愛知県尾張県民事務所海部県民センター、共催：日本野鳥の会愛知県支部により開催した海部地域親子ふれあい自然観察体験教室の一環で、弥富 IC および蟹江 IC のサギ営巣地の観察を行った。参加者 54 名。

7.2. 集会・誌上での発表発信

2016年8月10日(水) 海部農林水産事務所主催の海部農業経営者の会情報交換会において、弥富野鳥園が、「野鳥の話」と題して行った講演の中で、「サギと高速道路との共生」について紹介した。参加者 48 名

8. 記者発表・マスコミ報道等の記録

日付	発信・報道媒体等	内 容	備考
2008. 5. 18	中日新聞 (尾張版)	蟹江と弥富 IC に野鳥集合 ～環境変化で追いやられ～	
2010. 5. 8	中日新聞 (尾張版)	アオサギ大量出没 ～公園、神社で糞や鳴き声被害～、一宮:傷む名木 弥富・蟹江:共生の試み	
2010. 8. 24	記者発表・NEXCO 社長定例会見	3者連名による調印式のお知らせ	
2010. 8. 28	覚書調印式	取材(5社):CBC, 中京TV、読売新聞、中日新聞、日刊建設工業新聞	調印式後に現地案内
2010. 8. 28	CBC 夕方のニュース	調印式のみ	
2010. 8. 28	中京TV 夕方のニュース	調印式及び現地映像	
2010. 8. 29	中日新聞 (愛知総合)	サギ保護の覚書調印	
2010. 8. 29	読売新聞 (愛知版)	東名阪弥富、蟹江 IC で集団営巣のサギ環境保全へ覚書調印 ～年2回の会合開催など～	COP10 関連記事
2010. 8. 30	CBC 夕方のニュース	現地映像紹介	
2010. 10. 9	日本経済新聞 (中部経済欄)	COP10 が開幕 ～環境重視、企業も足並み～ 野鳥のサギ繁殖エリア(中日本高速)	一事例として紹介
2010. 10. 22	読売新聞 (中部経済欄)	企業発! COP10 サギと道路 共生図る	一事例として紹介
2010. 10. 26	NHK おはよう日本 全国向け	サギとの共生の取り組みを、現地映像を交えて紹介(COP10 関連)	10/6 取材対応
2011. 3. 23	記者発表・NEXCO 社長定例会見	「考える会」による「高速道路がサギのすみかになったわけ」の制作発表	
2011. 4. 28	朝日新聞 (愛知版)	サギとの共生考えて 中日本高速や県支部、冊子 5000 部小学校と図書館に	
2011. 7. 21	NEXCO 社長 定例会見	海部県民センター主催自然体験教室、弥富市主催自然体験セミナーへの協賛・協力	
2011. 7. 26	中日新聞 (尾張版)	生物多様性学ぼう 海部県民センターサギ観察会や木工工作 親子向けの催し	
2011. 8. 13	クローバーTV (ケーブルTV)	自然体験教室のサギ観察の様子をテレビ取材	
2011. 9. 1	中日新聞 (尾張版)	サギ増加 6000 羽に ～フェンス内の茂みは“楽園”～ 野鳥の会県支部調査	
2012. 7. 19	NEXCO 社長 定例会見	海部県民センター主催自然体験教室、弥富市主催自然体験セミナーへの協賛・協力	
2012. 8. 5	クローバーTV (ケーブルTV)	自然体験教室のバスに同乗しテレビ取材	
2012. 10. 5	TV 朝日(スーパーJチャンネル) 全国向け	津波で営巣地を失ったサギによる住民への影響が深刻な宮城県亘町と対比し、その解決法の一つとして共生への取り組みを紹介	
2013. 7. 28	クローバーTV (ケーブルTV)	自然体験教室のテレビ取材	
2014. 5. 20	読売新聞 (愛知県版)	サギと東名阪道の共生状況について(安全対策など)	
2014. 5. 27	名古屋テレビ 「トデスカ」	サギとの共生活動に関する取材	
2015. 8. 9	CBC ラジオ 「夏休み企画」	夏休み特別企画 サンデー・レポドラにて「鳥飛来注意」の標識などサギとの共生に関する取材	

